

毎日の健康から救命救急まで。

ひとりでも多くの方に安心をお届けする。

私たちは、地域とともに

みなさまの健康をサポートします。

まいにちから、
まんいちまで。



ダ・ヴィンチ導入から1年 広がるロボット支援手術の可能性

札幌市の中心部からほど近い山の手地区にあり「人と自然の健康と調和を大切に医療を実践します」を基本理念とする。2024年9月より手術支援ロボット「da Vinci(ダ・ヴィンチ)Xi」を導入し、現在は泌尿器科・外科・呼吸器外科・婦人科でロボット支援手術を行っている



①経尿道的尿路結石砕石術(TUL)で使用する最新のトリウムファイバーレーザー装置「SOL TIVE スーパーパルスレーザーシステム(オリンパス社製)」を新たに導入。2025年10月に国内で初めてこの機器を用いた手術を実施。TULは尿道から内視鏡(尿管鏡)を挿入し、レーザーで尿管・膀胱・腎臓などの結石を破砕・摘出する治療方法で、最新のトリウムファイバーレーザー装置では従来のホルミウムレーザー装置と比べ、より迅速かつ効率的に結石を粉碎でき、身体への負担がより少ない安全な手術が期待される。「これまで他院へ紹介していた比較的大きな結石にも対応できるようになり、より多くの患者さんに治療を提供できる体制が整いました」と前鼻医師

北海道医療センター泌尿器科では、ロボット支援手術の対象となる疾患が6つあり、7種類の術式が保険診療として実施可能で、導入から1年が経過し、25年12月時点で合計86例の手術を行っている。泌尿器科でロボット支援手術を担当する泌尿器科医長兼低侵襲手術センター副センター長の前鼻健志医師は、日本ロボット外科学会専門医および日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会認定ロボット支援手術プロクター1医(指導医)の資格を持ち、泌尿器科領域全術式の執刀経験を持つ。また、ダ・ヴィンチ以外のロボット機種(LEGOSなど)のプロクター1医の資格も有しており、各機種の特徴を理解したうえで、患者が安心して手術を受けられる環境づくりに努めている。

「泌尿器科におけるロボット支援手術の特徴として、ほとんどの症例でドレン(体液を排出する管)を留置していないため、多くの患者さんが手術翌日には管類(体内留置物)から解放され、術後2日目には退院できるのではないかと、というくらい元気な患者さんいらっしゃいます(前鼻医師)

25年10月からは膀胱がんに対する根治的膀胱摘除術・尿路変更術も開始。これまで膀胱摘除が必要なお患者は大病院などに紹介していたが、今後は同病院での対応が可能となった(一部の尿路変更術を除く)。「従来の開腹手術は身体への侵襲が非常に大きかったですが、ダ・ヴィンチを用いることで、①術中の出血量が非常に少なく、②輸血がほぼ不要、③傷口は最大でも5cm弱と小さく、④術後早期に食事再開が可能で入院期間も短縮できる、といったメリットがあります。これらの利点から80歳以上の高齢の方でも膀胱摘除術を治療の選択肢として検討できるようになりました」と前鼻医師は話す。



院長
伊東 学氏

北海道大学医学部卒業。日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎脊髄病医。日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医・専門医。日本脊椎外科学会脊椎脊髄外科専門医ほか



泌尿器科医長
低侵襲手術センター副センター長
前鼻 健志氏

札幌医科大学医学部卒業。日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医。日本ロボット外科学会専門医。日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会認定ロボット支援手術プロクター1医(指導医)ほか。医学博士

内科・内分泌/代謝/糖尿病内科・腎臓内科・心療内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・脳神経内科・小児科・小児神経内科・精神科・皮膚科・形成外科・眼科・耳鼻いんご科・アレルギー科・リウマチ科・血液内科・放射線科・外科・心臓血管外科・小児外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・婦人科/リハビリテーション科/麻酔科/救急科/病理診断科/緩和ケア内科

独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター

☎011-611-8111
札幌市西区山の手5条7丁目1-1
<https://hokkaido-mc.hosp.go.jp>

診療受付時間/
月～金 8:30～11:00 13:00～15:00(一部の科のみ)
※初診については原則紹介制、再診については予約制。各科・曜日により異なるため事前に確認を
休診日/土曜・日曜・祝日
最寄りアクセス/
JR北海道バス北海道医療センター前停留所下車、
地下鉄東西線琴似駅から徒歩約20分